



佐藤 貴雄
(民声クラブ)

保健行政・子育て支援について

骨髄バンク推進事業について

問 二十八年度に群馬県が始める骨髄ドナー助成制度の概要は。

答 骨髄提供に伴う休業等の経済的負担を支援する目的で、市町村と協力して通院や入院をした場合、一日につき二万円を七日間を上限に助成します。

問 本市の対応は。

答 県に準拠した要綱を整え、早急に制度実施の検討をします。

子育て支援について

問 子育て支援は多子世帯だけではなく、一人目からの支援が重要。これまでどのような視点で子育て支援を行ってきたか。

答 女性の社会進出、子育てと仕事の両立の難しさ、育児の心理的・肉体的負担を考慮し支援を行ってきました。

問 職場のワークライフバランスに配慮できるイクボスを活用して子育て支援に活かす考えは。

答 庁内周知と管理職の制度理解

を推進し、民間啓発も努めます。

問 ミニファミリースポーツセンターの今後の体制は。

答 委託先の検討を行い、切れ目のないよう事業実施します。

問 学童クラブの課題や要望は。

答 保護者の就労時間に配慮した開所時間設定や、一部に入所希望者が大幅増加しています。

問 その対応は。

答 アンケート調査等のニーズ把握や、国の補助制度を活用した施設整備と環境整備を行います。



骨髄採取



田中 伸一
(無所属)

本市の総合戦略と人口ビジョン・住環境の整備促進と対策・蚕糸業継承対策について

住環境の整備促進と対策について

問 本市の地域別人口の推移と高齢化率は。

答 地域別人口は、地域差があり特に、中山間地域の人口減少と高齢化が進行しています。

問 集落の維持、保全は。

答 中山間地域は高齢化が進み、今まで隣組で行っていた、道普請、市道脇の草刈り、側溝の清掃等共同作業ができていく集落があるようです。

問 どのような支援ができるか。

答 現地の実態を把握し、集落でできることはお願ひし、足りない部分は支援を検討します。

問 空き家の実態と相談窓口は。

答 平成二十五年統計によると空き家総数四千六百戸、空き家率十七・二%で増加しています。

また、新年度より新設する地域創造課で窓口対応していきます。

問 空き家バンク、リフォーム補助、空き家条例の必要性は。

答 空き家バンクは設置を含め検討します。また、リフォーム補助事業を実施します。空き家条例は、空き家が増加傾向にあり、実態把握と研究を重ね検討します。

問 移住定住への取り組みは。

答 具体的な取り組みはしていませんが、今後は受け入れ体制の充実や情報発信に努め、移住定住希望者にアピールします。

その他、二項目について質問しました。



空き家相談窓口 (地域創造課)